

本拠点の実習内容および教育効果

【単独航海】

単独航海では利用大学のシラバスに沿った実習を提供します。練習船ならではの現場観測や生物採集調査を各種搭載機器や漁労設備を使用して実施することにより、教育の視野を広げることができます。

現在、単独利用している大学は以下の通りです。(順不同)

<名古屋大学理学部および同大学院環境学研究科>

海洋観測の実施と理解

<京都大学総合人間学部および同大学院人間・環境学研究科>

海洋観測実習および生物生態調査の実施

<四日市大学環境情報学部>

基本的な海洋調査の体験、水質調査、海底堆積物と海域表層のマイクロプラスチック調査、共同生活による鍛錬

<北里大学海洋生命科学部>

熊野灘における深海性プランクトン類および深海性底生生物の採集

<京都大学大学院理学研究科>

海洋大気境界層における海象・気象の素力学過程に関する観測実習を行う

<中部大学応用生物学部>

海洋環境調査の実際を学ぶとともに、海洋環境における生物の多様性と近年の海洋環境汚染の実態の調査

【公開実習航海】

<水産生物学実習航海> (水産生物学実習)

海洋生物を採集し、諸形質の計測や解剖、試薬への固定・保存を行い、生物試料を組織、生理、遺伝子実験に供するための処理や保存方法を修得します。また、CTD による水深、塩分、水温などの海洋環境観測を実施し、海洋生物の生息環境との関係を理解できるようになります。

<海洋観測実習航海> (海洋環境調査実習)

現場観測を通して科学的に海を解析することにより、海洋の基礎的な知識や客観的理解が得られ、海洋内で起きている諸現象を正しく認識できるようになります。海洋の構造を現場観測を通して理解すること、海洋の仕組みに関する知識を深めること、船舶で用いた海洋の観測手法を身につけることを目的とします。

<大気海洋相互作用調査実習航海> (陸海空・環境科学実習)

ラジオゾンデを使用した高層気象観測や CTD を使用した海洋観測を行います。季節によっては、津の局地風『鈴鹿おろし』を捉えるためのラジオゾンデ観測も行います。取得したデータから、大気と海洋がどのように影響しあっているのか、黒潮内外での大気構造の違いがどのようになっているのか、鈴鹿おろしが吹いているときの大気構造がどのようになっているのかを学びます。

<底生生物調査実習航海> (海洋総合航海実習)

試験操業、海洋観測作業、採集された生物からのデータ収集、データに基づく解析など実施し、海洋生物資源の調査手法を実践的に身につけます。試験操業は LC ネットを用いて東シナ海で実施する予定です。

<海洋生物資源調査実習航海> (海洋生物資源調査実習)

洋上での海洋生物資源調査の方法を身につけるとともに、採集物からのデータ収集及びデータに基づく解析の方法を学びます。また、海洋生物資源のすむ海洋環境の構造を明らかにする方法を身につけます。

<海洋食文化実習航海> (紀伊黒潮流域圏航海実習)

近年、日本の魚食文化が世界で注目される一方で、日本では魚離れが起きているといわれます。このような中で、魚食文化の正しい理解を次世代の担い手である学生に伝えていくことは、水産学に携わる者の重要な使命であると我々は考えます。日本人の食生活を豊かにしてきた地域の食文化に関する実習を取り入れた海洋・食文化実習航海を提供し、私たちが海洋から受けている恩恵(生態系サービス)を実感・体験します。